

2023年10月入学

## 東京農工大学大学院工学府博士前期課程（修士）国際専修

ASEAN・日本連携エンジニアリーダー育成プログラム

国費外国人留学生・私費外国人留学生 学生募集要項

大学院工学府博士前期（修士）課程は、全専攻に国際専修（英語修了コース）の教育課程を設置し、ASEAN諸国からの優秀な外国人留学生を中心とした超スマート社会を支える工業製品のイノベーションな付加価値を創出できるスキルを持ったエンジニアリーダーを育成します。

### I 専攻分野及び募集人員

#### 1 専攻分野および指導予定教員

- (1) 応募者はP14～P31の工学府教育研究分野の中から希望する専攻および指導予定教員を選択して下さい。
- (2) 出願に先立ち、応募者は必ず指導予定教員と相談し、入学及び希望する研究課題について了承を得て下さい。

#### 2 募集人員

- (1) 大学推薦による国費外国人留学生 4名
- (2) 私費外国人留学生 4名

※（1）と（2）は併願可能です。

### II 出願資格および条件

P2～P6 参照 大学推薦による国費外国人留学生  
P7～P9 参照 私費外国人留学生

### III 共通事項

P10 参照

### IV アドミッションポリシーおよび教育研究分野

P11～P31参照

## II 出願資格および条件

### 「大学推薦による国費外国人留学生」の出願資格および条件

#### 1 対象

大学院レベルの外国人留学生として、新たに海外から留学する者として。

※現在、社会人の者は最終学歴の学業成績係数、在學生は現在在籍する課程の学業成績係数が 2.30 以上であり、奨学金支給期間中の在籍課程においてもこれを維持する見込みがある者とします。さらに下記「(6) 語学能力」のいずれかの条件を満たす者として。

#### 2 国籍

日本国政府と国交のある国の者として。申請時に日本国籍を有する者は、原則として募集の対象となりません。ただし、申請時に日本以外に生活拠点を有する日本国籍を有する二重国籍者に限り、渡日時まで外国の国籍を選択し、日本国籍を離脱する予定者は対象とします。

#### 3 年齢要件 (上限)

1988年4月2日以降に出生した者として。

※上記年齢要件の例外は国籍国の制度・事情（兵役義務・戦乱による教育機会の喪失等）により資格年齢時に応募できなかった者と文部科学省が判断した場合に限られる。個人的事情（経済状況、家族の事情、健康状態、大学又は勤務先の都合等）は一切認めない。ただし、上記年齢要件を満たさないヤング・リーダーズ・プログラム修了生が博士後期課程への入学を希望する場合は、同プログラム修了後5年以内に限り、応募を認める。

#### 4 学歴

日本の大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者として。なお、日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、以下のいずれかに該当する者として。

- 1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。（見込みの者を含む。）
- 2) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学する月の1日現在満22歳に達した者。

#### 5 専攻分野

出身大学において専攻した分野又は関連した分野とし、本学府で研究が可能な分野であること。

#### 6 語学能力

英語の能力において、以下のいずれかの条件を満たす者。

- ① 正規課程への入学時点で英語におけるヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) のB2 相当以上の資格・検定試験のスコアを有している者。
- ② 日本の大学院修士課程・博士課程 (前期) への入学資格を満たす教育課程を、英語を主要言語として修了した者。
- ③ ①相当以上の英語能力を有していると本学府において判断できる者。

#### 7 健康

日本留学について心身ともに支障がないと本学府が判断した者として。

## 8 渡日時期

2023年10月1日～10月14日までの間で本学府の指定する期日までに渡日してください。

## 9 その他注意事項

- 1) 次に掲げる事項に一つでも該当する者については対象外とする。採用以降に判明した場合には辞退すること。
  - ① 渡日時及び奨学金支給期間において、現役軍人又は軍属の資格の者。
  - ② 文部科学省又は本学府の指定する期日までに渡日できない者。
  - ③ 過去に日本政府（文部科学省）奨学金留学生であった者（渡日後辞退者を含む）。ただし奨学金支給最終月の翌月から奨学金支給開始月までに3年以上の学業又は職務経歴がある者、又は最後に受給した日本政府（文部科学省）奨学金が日本語・日本文化研修留学生（帰国後に在籍大学を卒業した又は卒業見込みの者に限る。）、日韓共同理工系学部留学生、ヤング・リーダーズ・プログラム留学生のいずれかであった者はこの限りではない。なお、文部科学省学習奨励費（MEXT Honors Scholarship）は日本政府（文部科学省）奨学金留学生にあたらなため、過去に受給歴があっても応募可能。
  - ④ 日本政府（文部科学省）奨学金制度による他の奨学金プログラムとの重複申請をしている者。
  - ⑤ 申請時に既に在留資格「留学」で日本の大学等に在籍している者及び申請時から奨学金支給期間開始前に私費外国人留学生として日本の大学等に在籍、又は在籍予定の者。ただし、現在、日本の大学等に在籍又は在籍予定の私費外国人留学生であっても、奨学金支給期間開始前に修了し帰国することが申請時において確実で、新たに在留資格「留学」を取得し渡日する者はこの限りではない。
  - ⑥ 奨学金支給開始後に日本政府（文部科学省）以外の機関（自国政府機関を含む）から奨学金を受給することを予定している者。
  - ⑦ 「卒業見込みの者」であって、所定の期日までに学歴の資格及び条件が満たされない者。
  - ⑧ 申請時に二重国籍者で、渡日時までに日本国籍を離脱したことを証明できない者。
  - ⑨ 申請時から日本以外での研究活動（インターンシップ、フィールドワーク等）や休学等を長期間予定している者。
  - ⑩ 博士課程修了者については、学位取得を目的としない者。
- 2) 大学卒業見込みで出願した者で、2023年9月までに卒業できない者は入学を取り消します。
- 3) 出願資格および条件Ⅱの4にかかる者で大学卒業までに学業年数が16年に満たない場合、事前に審査を受ける必要があるため、2023年1月6日までに本専攻の指導教員予定者に必ず申し出てください。
- 4) 日本留学中、日本の国際化に資する人材として、広く地域の学校や地域の活動に参加することで、自国と日本との相互理解に貢献するとともに、卒業後も留学した大学と緊密な連携を保ち、卒業後のアンケート調査等にも協力する他、帰国後は在外公館等が実施する各事業に協力することで、自国と日本との関係の促進に努める者を採用いたします。

## 応募手続

すべての応募者はあらかじめ希望する指導教員予定者と連絡を取り合い、受入許諾を受けてから出願してください。

### 1) 提出先

2023年1月27日（必着）までに、本学府の指導予定教員宛てに、国際郵便等で郵送してください。

### 2) 提出書類

- ① 日本政府奨学金留学生申請書（所定様式）
- ② 専攻分野及び研究計画（所定様式）
- ③ 研究業績（所定様式）
- ④ 学位論文概要等（様式自由・学士論文の概要を和文もしくは英文600語未満にまとめてください。）
- ⑤ 所属大学等の学部長レベル以上の推薦状  
（東京農工大学学長宛てのもの。原則として、所属大学等の専用便せんを使用し公印を押したのもの。）
- ⑥ 本国の戸籍謄本又は市民権等の証明書
- ⑦ 最終出身大学（大学院）の成績証明書
- ⑧ 最終出身大学（大学院）の卒業証明書または卒業見込証明書または学位授与証明書
- ⑨ 最終出身大学において学業優秀であることを証明する学業成績資料等  
（例えば、GPA、ABCのクラス分け、具体的な順位（〇人中第〇位）等、最終出身大学における成績が明確に判る指標など。）
- ⑩ 【6語学能力】のいずれかの条件を満たす根拠となる書類（例：TOEFL、IELTS等の証明書）  
（【6語学能力】の①または②を証明する書類がない場合は、至急指導教員予定者へご連絡ください。）
- ⑪ 健康診断書（原則として、書類提出日から6か月以内に受診したもの。）（所定様式）
- ⑫ パスポートの写し（取得済みの場合のみ）

### 3) その他注意事項

- i) 申請書類は、すべて日本語又は英語により、出来るだけタイプを用いて、A4判両面印刷に統一して作成してください。（その他の言語により作成する場合は、日本語もしくは英語による訳文を添付してください。）
- ii) 提出書類は原則として返却しません。
- iii) 上記申請書がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、付属書類が完全に揃っていない場合、又は提出期限が過ぎた場合は受理しません。
- iv) 提出書類及びその様式は変更することがあります。

### 4) 選考方法及び本プログラムの目的

- i) 提出された書類及び口述試験により可否を判定します。口述試験日時は2023年2月1日～7日までの間のいずれかの日を予定しています。口述試験の詳細については、指導予定教員から通知します。
- ii) 可否については2023年3月下旬までに、指導予定教員から通知します。

- iii) 合格者は東京農工大学から国費外国人留学生候補者として文部科学省に推薦します。文部科学省の審査に通過した後、奨学金留学生としての採用が決定します。奨学金採用通知は、文部科学省の通知に基づき、指導予定教員から本人に7月頃に通知します。
- iv) 授業及び研究指導は主として英語により行い、2年間で修士（工学）または修士（学術）を修得させることを目的とし、在籍身分は正規の大学院生とします。

## 5) 奨学金

奨学金支給期間は2023年10月からの2年間です。また、2023年度の奨学金月額は無定であるため、参考として2022年度の奨学金月額を以下のとおり示します。（予算、物価等の状況により、支給額は各年度で見直される場合があります。）

2022年度実績 月額147,000円

大学を休学又は長期に欠席した場合、その期間の奨学金は支給されません。

なお、次の場合には、原則として奨学金の支給を取りやめます。また、これらに該当するにもかかわらず奨学金を受給した場合、該当する期間に係る奨学金の返納を命じることがあります。

- i) 申請書類に虚偽・不正の記載があることが判明したとき。
- ii) 文部科学大臣への誓約事項に違反したとき。
- iii) 日本の法令に違反し、無期又は一年を超える懲役若しくは禁固に処せられたとき。
- iv) 本学の学則等に則り、懲戒処分として退学・停学・訓告及びこれらに類する処分を受けた場合あるいは除籍となったとき。
- v) 学業成績等不良や停学・休学等により標準修業年限内での修了が不可能であることが確定したとき。
- vi) 「留学」の在留資格を新たに取得せずに「留学」の在留資格が他の在留資格に変更になったとき。
- vii) 他の奨学金（使途が研究費として特定されているものを除く）の支給を受けたとき。
- viii) 採用後、進学に伴う奨学金支給期間延長の承認を受けずに上位の課程に進学したとき
- ix) 本学を退学したとき又は他の大学院に転学したとき。
- x) 1年毎の各時点における学業成績係数が2.30又は大学が定める成績基準を下回ったとき。

## 6) 旅費

- i) 渡日旅費について、渡日する留学生の居住地最寄りの国際空港から成田国際空港又は受入大学が通常の経路で使用する国際空港までの下級航空券を交付します。なお、渡日する留学生の居住地から最寄りの国際空港までの旅費、空港使用料、空港税、渡航に要する特別税、日本国内の旅費等は留学生の自己負担とします。（「留学生の居住地」は原則として申請書に記載された現住所とします。）また、国籍国以外からの航空券は支給しません。
  - ii) 帰国旅費について、奨学金支給期間終了月内に帰国する留学生については、本人の申請に基づき、成田国際空港から当該留学生が帰着する場所の最寄りの国際空港までの下級航空券を交付します。
  - iii) 帰国する留学生の日本での居住地から最寄りの国際空港までの旅費、空港税、空港使用料、渡航に要する特別税、国籍国内の旅費（航空機の乗り継ぎ費用を含む。）、旅行保険料、携行品・別送手荷物に関わる経費等は留学生の自己負担とします。なお、自己都合及び上記5) 奨学金 i ~ x」の事由により奨学金支給期間終了月前に帰国する場合は帰国旅費を支給いたしません。
- IV) 渡日及び帰国の際の保険料は自己負担とします。
- V) 奨学金支給期間終了後も引き続き日本に滞在する場合（例：日本での進学、就職）、一時帰国する際の帰国旅費は支給しません。

## 7) 教育費

大学における入学検定料、入学料及び授業料等は東京農工大学が負担します。

## 8) 入学時に要する経費

- i) 入学検定料、入学料、授業料は徴収しません。
- ii) 学生教育研究災害傷害保険制度は、学生の正課および課外活動中における不慮の災害事故により身体に傷害を被った場合の補償制度であり、新入生は全員加入してください。保険料は、2年間分で1,750円です。
- iii) 学生賠償責任保険制度は、学生の正課、学校行事およびその往復中で、他人にけがをさせたり、他人の財物を損壊した場合の補償制度であり、新入生は学生教育研究災害保険と共に全員加入してください。保険料は2年間で3,600円です。また、別途、消費生活協同組合への加入料の5,000円が必要となりますが、修了時に返金します。  
※なお、保険料、加入料は変更になる場合があります。

## 「私費外国人留学生」の出願資格および条件

### 1 対象

大学院修士課程レベルの外国人留学生として海外から留学する者及び在日の者で、本学工学府にて修士の学位取得を希望する者。

### 2 国籍

国籍は問いません。

### 3 年齢上限

年齢は問いません。

### 4 学歴

日本の大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者としします。なお、日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、以下のいずれかに該当する者としします。

- 1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。（見込みの者を含む。）
- 2) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学する月の1日現在満22歳に達した者。

### 5 健康

心身ともに大学における学業に支障のない者としします。

### 6 語学能力

英語の能力において、以下のいずれかの条件を満たす者。

- ①正規課程への入学時点で英語におけるヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のB2相当以上の資格・検定試験のスコアを有している者。
- ②日本の大学院修士課程・博士課程（前期）への入学資格を満たす教育課程を、英語を主要言語として修了した者。
- ③ ①相当以上の英語能力を有していると受入大学において判断できる者。

### 7 渡日時期

2023年10月14日までに渡日してください。

### 8 その他注意事項

- 1) 大学卒業見込みで出願した者で、2023年9月までに卒業できない者は入学を取り消します
- 2) 大学卒業までに学業年数が16年を満たさない場合、事前に審査を受ける必要があるため、2023年1月6日までに本専攻の指導教員予定者に必ず申し出てください。

## 応募手続

すべての応募者はあらかじめ希望する指導教員予定者と連絡を取り合い、受入許諾を受けてから出願してください。

### 1) 提出先

2023年1月27日（必着）までに、本学府の指導予定教員宛てに、国際郵便等で郵送してください。

## 2) 提出書類

- ① 2023 年度東京農工大学大学院工学府博士前期課程国際専修入学申請書（所定様式）
- ② 専攻分野及び研究計画（所定様式）
- ③ 研究業績（所定様式）
- ④ 学位論文概要等（様式自由・学士論文の概要を和文もしくは英文600語未満にまとめてください。）
- ⑤ 最終出身大学の卒業証明書または卒業見込証明書・成績証明書・学位記等証明書
- ⑥ 本国の戸籍謄本又は市民権等の証明書
- ⑦ 【6 語学能力】のいずれかの条件を満たす根拠となる書類  
（例:TOEFL、IELTS 等の証明書）  
（【6 語学能力】の①または②を証明する書類がない場合は、至急指導教員予定者へご連絡ください。）
- ⑧ 健康診断書（原則として、書類提出日から遡り6か月以内に受診したもの。）（所定様式）
- ⑨ パスポートの写し（取得済みの場合のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・写し1部
- ⑩ 入学検定料30,000円（本学所定の入学検定料払込用紙により支払ってください。  
なお、海外の応募者は指導予定教員の指示に従ってください。）

## 3) その他注意事項

- i) 申請書類は、すべて日本語又は英語により、出来るだけタイプを用いて、A4判両面印刷に統一して作成してください。（その他の言語により作成する場合は、日本語もしくは英語による訳文を添付してください。）
- ii) 提出書類は原則として返却しません。
- iii) 上記申請書がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、付属書類が完全に揃っていない場合、又は提出期限が過ぎた場合は受理しません。
- iv) 提出書類及びその様式は変更することがあります。
- v) 入学検定料払込用紙は、事前に小金井地区事務部学生支援室入学試験係あてにご請求下さい。払込み後、「入学検定料払込受付証明書【大学提出用】」を出願書類に同封してください。

## 4) 選考及びプログラムの目的

- i) 提出された書類及び口述試験により合否を判定します。口述試験日時は2023年2月1日～7日までの間のいずれかの日を予定しています。口述試験の詳細については、指導予定教員から通知します。
- ii) 合否は、2023年3月下旬までに指導予定教員から通知します。
- iii) 授業及び研究指導は主として英語により行い、2年間で修士（工学）または修士（学術）を取得させることを目的とし、在籍身分は正規の大学院生とします。

## 5) 入学時に要する経費

- i) 入学金282,000円
- ii) 授業料後期分（10月～3月）267,900円（年額535,800円）  
（入学金及び授業料は改定されることがあります。なお、在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。）
- iii) 学生教育研究災害傷害保険制度は、学生の正課および課外活動中における不慮の災害事故によって身体に傷害を被った場合の補償制度であり、新入生は全員加入してください。  
保険料は、2年間分で1,750円です。
- iv) 学生賠償責任保険制度は、学生の正課、学校行事およびその往復中で、他人にけがをさせたり、他人の財物を損壊した場合の補償制度であり、新入生は学生教育研究災害保険と共に全員加入し



てください。保険料は2年間で3,600円です。また、別途、消費生活協同組合への加入料の5,000円が必要となりますが、修了時に返金します。 ※なお、保険料、加入料は変更になる場合があります。

### Ⅲ 共通事項

- 1 留学生は渡日に先立ち、日本の風土、習慣、気候、大学の状況について、あらかじめできるだけ研究しておいてください。また、授業以外の日常生活は日本語での生活になることについて十分理解しておかなければなりません。
- 2 大学案内、研究、教育内容等については、ホームページを参考してください。  
(<https://www.tuat.ac.jp/en/>)
- 3 出願時に入手した個人情報は、国立大学法人東京農工大学個人情報の保護に関する規程に則って適切に取り扱います。
- 4 本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人東京農工大学安全保障輸出管理規程」を定め、学生の受入れに際し厳格な審査を行っています。規制事項に該当する場合には、本学から経済産業省への許可申請が必要となり、すぐに教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。また、本学からの許可申請について、経済産業省が国際平和・安全の維持の観点から不許可とした場合、結果的に本学での教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。
- 5 その他、本募集要項に関する問い合わせは、文書により行ってください。

#### 【問い合わせ先】

〒184-8588

日本国東京都小金井市中町2-24-16

東京農工大学大学院工学府 小金井地区事務部学生支援室入学試験係

E-MAIL: tnyushi@cc.tuat.ac.jp

FAX: (+81) 42-388-7013

## IV アドミッションポリシーおよび教育研究分野

### 学びの目的

工学府は、自然環境と科学技術に関心を持ち、常に自己を啓発し、広い知識と視野を持ち、高い自主性と倫理性に支えられた実行力を有し、国際社会で活躍できる技術者・研究者を目指す学生を国内外から広く受け入れる。最近の科学技術の発展は目覚ましいものがあり、技術・情報が高度化、先端化すると同時に種々の専門分野に関連する境界領域や総合領域における発展も著しい。工学府は、このような時代の要請に対応する科学と工学の基礎学問から先端応用技術に至る広範囲の研究教育を教授し、幅広い学識と高度の研究能力を有する独創性豊かな研究者、技術者の養成を目標とする。

### アドミッションポリシー

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、工学府は、以下のような人材を求める。

- ①幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②大自然の真理に対する探求心とモノ作りマインドを持ち、理工学分野の科学技術に関心があり、研究を通じて主体的に考え、他人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

### 生命工学専攻

国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせ、最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ専門家として社会の中核で活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①生命工学専攻分野を学ぶための化学・生命科学・工学に関する十分な基礎学力と、研究者や技術者に必要な高い倫理性を身につけた者。
- ②生命工学分野の最先端の研究に対する探求心を持ち、学際的かつ国際的に協力・協働して、社会的に貢献したいという意欲のある者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、生命工学分野の高度な専門知識・解析能力・洞察力に基づいて主体的に研究課題を設定することができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

### 生体医用システム工学専攻

現代医療の根幹を支える生体医用工学の先端技術および関連する専門知識を修得させるとともに、異分野の専門家との協働を通じて、バイオメディカルイノベーションプロセスに基づいた実践的な研究開発能力を有し、多種多様な産業分野のシーズを医療・ヘルスケア機器開発に橋渡しできる、高度で知的な素養を備えた、国際社会で活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める

- ①生体医用工学分野を学ぶための幅広い視野と十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②自然科学に対する探求心とモノ作りマインドを持ち、生体医用工学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて主体的に考え、専門分野の境界を越えた複数の研究者、技術者、専門家等と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
- ③人類が直面する健康・医療・衛生等の諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、新しい研究領域や医療・ヘルスケア技術開発につながる研究に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語および英語による高いコミュニケーション能力を有する者。

## 応用化学専攻

化学と物理の基盤的学力と、応用化学、材料科学、および関連する分野に関する専門知識に基づき、自然・生命・環境・エネルギー等の分野に関連する化学者・材料科学者として、高度専門的な科学技術の発展に指導的立場を担い、安全安心な持続型社会の形成に貢献し、豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める

- ①化学および物理分野や関連分野の十分な基礎学力を有し、研究者や技術者に必要な倫理観を有する者。
- ②化学物質に対して、原子・分子レベルの視点から新しい価値を創出し、その分野の専門家として社会的・国際的に貢献する意欲と積極性を有する者。
- ③自然・生命・環境・エネルギー等の分野に関連する化学・材料科学分野において、自ら研究課題を設定し、未踏の学理の追究、新しい研究領域の開拓に果敢に挑戦する意欲を有する者。
- ④日本語または英語での優れたコミュニケーション能力を有する者。

## 化学物理工学専攻

エネルギー、環境、新素材等に関連する諸問題を化学工学・物理工学の深い専門的知識の統合的理解と活用によって解決する能力と、先導的役割を果たす高度専門的指導力を有することで、持続型社会の形成に貢献し社会的・国際的に活躍する研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①化学・物理・数学・英語等、化学工学・物理工学分野を学ぶための十分な基礎学力を持つとともに、幅広い視野と高い倫理観を身につけた者。
- ②エネルギー・地球環境・医薬/食品・素材/材料、あるいはそれらの課題解決の基盤となるプロセス技術・計測技術等に関連する化学工学・物理工学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、化学工学・物理工学の統合的理解と活用によって多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題の解決に向けて果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

## 機械システム工学専攻

数学・物理学の高い基盤的解析能力と機械システム工学の幅広く深い専門知識に基づいて、環境と調和して持続発展可能な科学技術立脚社会をグローバルスケールで実現するための Unique & Best な先端の機械システムを設計・創造し、世界の社会・文化に関する深い理解・洞察と豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める

- ①幅広い視野と機械システム工学分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②機械システム工学の最先端の研究に取り組む高い学問的応用能力があり、専門分野での国際的活動を通じて人類・社会に貢献したいという強い意志を持つ者。
- ③数学・物理学ならびに機械システム工学分野において高度な解析能力・専門知識・洞察力に基づいて問題を発見・解決する能力を有するとともに、新しい研究領域や融合的領域における研究課題に果敢に挑戦する意欲にあふれた者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

## 知能情報システム工学専攻

現代社会の根幹を支える情報工学、電気電子工学の先端技術及び関連する専門知識を修得させるとともに、社会ニーズに基づく新たな知能情報システム工学を探求・考案し、専門が異なる者との協働を通じて創り上げる高度な研究開発力を備え、国際的に活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①情報工学、電気電子工学および理工系基礎科目に関する十分な基礎知識と倫理性を身につけた者

- ②情報工学、電気電子工学の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意識が高い者
- ③情報工学、電気電子工学の専門性に基づいた問題発見・解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者

教育研究分野（教員紹介）

生命工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
細胞機能工学	斉藤 美佳子	幹細胞工学、単一細胞機能の分子制御（遺伝子、サイトカイン、エクソソームなど）、複合疾患モデルの創製（糖尿病予備群モデルマウス、がん転移モデル細胞など）、複合疾患の発症機構解析、疾患予防の細胞医薬の開発、レギュラトリーサイエンス、実験動物健康モニタリング、に関する研究を行う。
	モリ テツシ	新規・未特定環境微生物の有効利用および生態・役割・遺伝的バックグラウンドの理解を目指し、分子生物的手法を基盤とした技術開発研究を行う。
生命分子情報科学	黒田 裕	種々分光学法、X線結晶構造解析法、NMR法、計算機シミュレーションを融合的に用いて、タンパク質を可溶化、又はその機能を改変する研究。可溶化や機能改変による生物学的影響の検証。
	津川 裕司	当研究室では、植物とヒトとの繋がりを紐解くオミクス解析の技術開発を通じて、自然界で創生される100万種を超える化合物が、ヒトおよび腸内細菌叢でどのように代謝され、どのような生体分子に作用し、我々の生体恒常性維持に寄与しているかを解明する研究を行います。
生体分子構造学	中澤 靖元	シルクフィブロイン等の天然高分子を用いた新規な組織工学材料を創製する。天然高分子の機能化および高次構造制御による微細構造-物性-機能性の相関関係を明確化するとともに、医工連携により、組織再生型の心臓修復用パッチや動脈グラフト、創傷被覆材、心臓弁、軟骨等の次世代医療機器への応用を図る。
細胞分子工学	稲田 全規	遺伝子改変技術を駆使した分子細胞生物学的なアプローチにより、コラーゲンの産生と分解に関連する多彩な生体现象を解析する。特に遺伝子欠損マウスを用い、関連疾患の発症機構を病態生化学的に解明する。
	太田 善浩	ミトコンドリアが関与する生命現象（プログラム細胞死、活性酸素発生、エネルギー代謝など）の理解、及びミトコンドリアに関連する創薬の推進を目指し、イメージングを中心とした計測技術の開発及びメカニズムの解明を行う。
	平田 美智子	遺伝子編集技術を用いた遺伝子欠損動物の作製とその表現型解析による遺伝子機能の生化学的解析を行う。特に創薬における実験評価系の構築や画像診断技術の開発に資する研究開発を行う。
ナノ生命工学	池袋 一典	新規DNA認識素子を設計・合成するために、進化の過程を模倣した手法を用いてDNA結合タンパク質を改変することを試みる。またDNA分子自体を分子認識素子として利用するDNAアプタマーの開発研究を行う。
	川野 竜司	半導体微細加工（MEMS）技術、マイクロ流体技術を用い、人工細胞膜中に膜タンパク質・膜受容体を埋め込んだチップを作製し、創薬・生体模倣型バイオセンサの研究を行う。またチャンネル膜タンパク質の持つナノ孔を利用し、高感度-分子検出システムを構築する。

生命工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
バイオビジネス	津川 若子 (協力教員)	次世代の医療用検体検査技術のプラットフォーム開発、環境計測・化成品計測用バイオセンシング技術の開発など、新規生命分子・システムを応用したバイオデバイスの開発を進める。
分子生命化学	浅野 竜太郎	次世代型のタンパク質製剤の開発、およびバイオセンサーへの展開を目指して、抗体を中心とする免疫分子に基づく人工タンパク質のデザインと精密機能解析を進める。
植物情報工学	山田 晃世	高等植物が進化的に獲得した多種多様な環境ストレス耐性機構を細胞、タンパク質、遺伝子レベルで解明し、その工学的応用に関する研究を行う。
海洋生命工学	吉野 知子	微生物を利用した新規バイオマテリアルの開発、特に分子生物学、タンパク質科学、遺伝子工学を基盤とした高機能性バイオマテリアルの創製とそれらを用いたバイオセンサの開発を行う。
生命分子工学	新垣 篤史	分子生物学的な手法を用いて、バイオミネラル化の機構を解析し、無機物と有機物から構成される新しい物性を持ったナノバイオマテリアルの開発を行う。
	田 中 剛	マリンカルチャーコレクションの構築及びそれを利用したバイオ燃料・医薬品原料などの有用物質生産に関する研究/機械学習やバイオイメージングプラットフォームに基づく病原性微生物検出、医療診断技術開発に関する研究を行う。
生体電子工学	中村 暢文	バイオプロセスに有用なタンパク質の探索と改良、それらのタンパク質を利用した生体システム模倣プロセス、バイオエレクトロニックデバイスの開発を行う。また、イオン液体を用いた発電・蓄電デバイスの開発を行う。
	一川 尚広	脂質分子は自己組織的に二分子レイヤーを形成し、様々な生体機能物質の場として機能する。当研究室では、このような両親媒性分子の自己組織化を制御し、様々な周期構造を有する分子集合場を生み出し、これまでにない物質機能場の創成を目指しています。
生命有機化学	長澤 和夫 (協力教員)	有機合成化学手法を基盤とした、がん、エイズ、骨疾患等対にする新しい作用メカニズムによる「くすり」の開発研究を行う。環境調和を目指した新たな有機合成手法、試薬の開発を行う。
	桜井 香里	ペプチド、糖鎖や天然物生理活性分子をモチーフとした新規機能性分子を創製する方法論を、有機化学とバイオテクノロジーを組み合わせる。さらに得られる機能性分子をツールとして、生命機構を解明するケミカルバイオロジー研究を行う。

生命工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
	寺 正 行	生体高分子（核酸、タンパク質、細胞表層分子）を認識し、化学的な制御を可能とする低分子化合物の設計と合成を行う。合成した化合物を試験管レベル、細胞レベルで機能評価する。
生命環境工学	養王田正文 *2025.3 退職予定	細胞内における蛋白質の一生を司る分子シャペロンの分子構造から機能の解明。バイオレメディエーションによる環境修復に関する微生物とその検出技術の開発、オーダーメイド医療を目指した遺伝子解析技術の開発、および蛋白質の高次構造の解析をコンピューターによる動的構造変化の解明を行う。
	野口 恵一 （協力教員）	X線回折法、核磁気共鳴分光法、質量分析法、電子顕微鏡観察などの各種先端機器分析法などを用いて、生体関連低分子化合物や生体高分子の立体構造とその物性の相関について研究している。
	篠原 恭介	私達のからだの中で医学的に重要な役割を持つ繊毛細胞の構造や遺伝子の働きを、実験動物・電子顕微鏡・蛋白質の解析などにより調べています。
生物言語学	畠山 雄二	理論言語学、形式言語学、統語構造、意味構造、情報構造。

生体医用システム工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
医用電子デバイス工学	前橋 兼三	疾病の早期発見、安心安全社会の実現のために、複雑な生体システムを科学的に計測・解析するためのナノデバイスの開発を目指す。特に、特異的な微細構造と伝導特性を持つグラフェンおよびカーボンナノチューブに着目し、その製作技術、材料の基礎的な研究および高感度センサ、量子デバイス等の開発を行っている。
超高速生体光科学	三沢 和彦	世界最速のストロボフラッシュを駆使して光と生体分子との相互作用を自在に制御する技術を開発する。この農工大独自の技術を基盤として、生命科学・獣医学・医学分野を基盤的かつ横断的に融合させることで、革新的な早期診断・予防技術を提案する。
3次元画像工学	高木 康博	人の立体視機能を矛盾なく満たす立体表示技術としてホログラフィーやライトフィールド表示について研究を行い、VR・AR技術やメタバースで利用される次世代のヘッドマウントディスプレイやメガネなし3Dディスプレイを実現する。また、眼球内に入れて用いるホログラムコンタクトレンズについて研究を行い、これを用いた人間拡張技術の実現を可能にする。
医用超音波工学	榊田 晃司	超音波を用いて、身体を傷つけない診断・治療方法を研究している。物理学や電気電子工学の知見である「波動」を医療に応用する。医学系研究者と連携し、超音波



生体医用システム工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
		の生体作用の検証と、画像処理や医療ロボットと融合した治療技術の実現を目指している。
生体医用センシング	生 嶋 健 司	独自の音響・光技術や高度な量子技術を活用して、超音波やテラヘルツ波（ミリ波～赤外光）に関わる革新的なセンシング技術を開発する。従来技術では捉えることができなかった情報を可視化し、医療診断をはじめ、細胞評価、食品・産業用素材の検査など、様々な分野への応用を目指す。
生体物理工学	村 山 能 宏	生物物理学、ソフトマター物理学の実験的研究。特に、生体高分子の力学特性やレオロジー特性、微生物の運動機構に着目した生体機能の解明および観測、解析技術の開発を行う。
光波センシング工学	田 中 洋 介	多機能高速光情報処理、高機能光計測システムの構築、要素デバイス、並びにデータ処理技術に関する研究を行うと共に、構造物や生体のヘルスマニタリングへの応用を進めている。
超伝導工学	山 本 明 保	超伝導材料の物質科学・物性科学・応用に関する実験的研究。特に、高温超伝導材料を用いた新しい強力磁石の開発を行う。
生体機能性材料	赤 木 友 紀	化学・生物学・材料工学を基盤として、アンメットメディカルニーズに応えるスマートマテリアルの開発を行う。さらに、光や超音波等の物理エネルギーと組み合わせることで、効率・精度に優れた診断および治療の実現を目指している。
複雑系マイクロシステム	岡野 太治	細胞に似た特徴を有する人工細胞モデル（脂質二重膜小胞、化学振動素子、アクティブマター）を用いて、生き物らしい振る舞いの発現メカニズムを物理学的観点から調べる。また、マイクロ流体デバイスを活用して、先端の生命科学研究で必要とされる技術の開発も行う。
メカノバイオデザイン	吉 野 大 輔	細胞の力学応答機構に関する実験的研究と細胞応答を応用した医療機器の開発研究。特に、循環器系疾患を対象に、血行力学刺激に対する細胞応答機構および疾患の病態メカニズムの解明と循環器医療デバイスの開発を行う。
文化人類学	浅 井 優 一	人間の言語がそれを取り巻く社会文化、さらに自然環境を、どのように構築しているかについて、文化人類学・言語人類学・環境人類学の視座から研究。南太平洋のフィジー諸島でのフィールドワーク、フィジー語と伝統儀礼や神話的世界観の関係について研究。

応用化学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
光電子材料化学	熊谷義直	化合物半導体結晶の気相成長と物性の研究。窒化物半導体、酸化物半導体結晶の厚膜高速成長を理論と実験の両面から検討。
電子エネルギー化学	岩間悦郎	高速蓄電デバイスへの展開を目的としたナノ材料研究。ナノ粒子の結晶構造・欠陥・複合形態制御を組み合わせた新規ナノ複合体材料の設計開発とその評価技術構築。蓄電エネルギーと海水資源双方の高効率回収。
分子変換化学	加納太一	有機化学的手法を用いた生物学的等価体の効率的合成法の開発と生物活性物質合成への応用。人工酵素を目標とした有機分子触媒の創製と環境調和型の新規反応への応用。
分子設計化学	齊藤亜紀夫	Lewis酸あるいは超原子価ヨウ素を用いる効率的な新規有機合成反応の開発（連続的結合形成反応、多成分連結型反応などを中心）とその応用（生理活性物質や機能性材料などの合成）。
分子触媒化学	平野雅文	後周期遷移金属錯体による結合切断および形成反応。配位不飽和有機金属錯体の反応性に関する研究。原子利用効率の高い新しい分子触媒反応の開拓。
	森啓二	ヒドリド転位を鍵とする炭素-水素結合変換型環化反応の開発。 $\pi-\pi$ 相互作用を駆使する分子変換法の開発。
無機固体化学 (セラミックス)	前田和之	ゼオライト類縁物質や配位高分子等の新規ナノスペース材料の開発、構造解析、応用に関する研究。無機有機ハイブリッドナノシートの創製とナノスペース材料への展開。
	野間竜男 (協力教員) *2024.3退職予定	セラミック材料化学。セラミックス強誘電体薄膜の合成とその物性評価、ならびに光機能性セラミックスの設計と新しい合成方法の開発。
キャパシタテクノロジー (寄附講座)	玉光賢次	キャパシタ、リチウムイオン電池、ソフトエネルギーデバイスを対象とした、材料化学、機能設計、デバイス設計。さまざまな分野への応用展開
有機・高分子光電子材料	下村武史	フレキシブルな分子エレクトロニクス実現をめざした機能性高分子材料の研究：①導電性高分子ナノファイバーなどのナノ構造体の創製と分子スケールでの機能評価、②低次元性や柔軟性を利用したポリマーエネルギーデバイスの開発と機能評価、③自己組織性をもったソフトデバイスの開発と機能評価。
	中野幸司	有機合成化学を基盤とする有機機能性材料の創製。特に、①新しい $\pi$ 共役化合物の設計・合成、および有機エレクトロニクス材料・有機オプトエレクトロニクス材料としての機能評価と応用、②高活性・高選択性の発現を目指した新規重合触媒の開発、およびその触媒をもちいた機能性高分子材料の開発。

応用化学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
有機・高分子光電子材料	岡本 昭子	分子の空間的構造の精密な把握に基づく有機構造材料の開発：芳香環が非共平面的に集積して構築される分子性化合物の、①結晶中での分子構造（一分子を取り出したときの分子内の原子の空間配置）とその集合体の空間配置、溶液中での分子構造の変化挙動の解析、②モノマーへの変換と縮合系ポリマーへの組み込みに関する合成研究。
バイオ高分子材料	村上 義彦	医用高分子材料（バイオマテリアル）や機能性有機材料の開発。特に、次世代医療のための外科手術用組織接着材料、血管内手術用ゲル、薬物放出性マトリックス、遺伝子診断用ポリマー、がん特異的イメージング剤、バイオ分析用高分子膜などの開発。
	村岡 貴博	有機合成化学と超分子科学に基づいた、生体に関連した機能性有機分子の開発と応用。特に、①タンパク質を安定化・機能操作する分子の開発、②細胞膜などの脂質二分子膜の構造・物性を制御する分子の開発、③細胞活動を操作する分子の開発。
有機・高分子物理化学	渡邊 敏行	①二酸化炭素を原料とするナノダイヤモンド、②照射により繊維運動やぜん動運動・拍動するポリマー材料、③外部刺激により蛍光の On-Off を自在に制御できる有機材料、④ドラッグデリバリーシステムや再生医療に有用な高分子材料等の機能性材料を開発する。
	尾崎 弘行 *2024.3 退職予定	有機低・高分子とその集合体の電子構造の解析。固体清浄表面上の極薄膜（厚さ 4 Å の単分子層～数分子層）における分子の凝集構造と挙動のその場観察。単分子層反応を利用する極薄ポリマー単一層（有機単原子層）の創成・評価・マニピュレーション。
超分子・分子集積材料	帯刀 陽子	エレクトロニクスデバイス作製のための新規機能性有機材料の開発。①特異な電気・磁気特性を発現する機能性材料の合成、②機能性材料からなる分子集合体の作製、③電気・磁気物性などの有機電子デバイス特性の評価。
	兼橋 真二	持続可能社会の実現に貢献する新規な環境機能材料の創製。高分子科学、物質移動、環境科学に立脚した未利用バイオマス由来の機能性マテリアル、温室効果ガス回収、クリーンエネルギー水素精製、天然ガス・バイオガス濃縮用の分離膜素材、フードロス対策となるガスバリア材料およびそのハイブリッド材料に関する研究。
有機材料数理	合田 洋	デーン手術、ヘガード分解、葉層構造、接触構造などの幾何学的手法を用いる三次元多様体およびその中の結び目の解明。
	畠中 英里	低次元トポロジーにおける手法を用いた結び目、曲面結び目および3次元多様体の分類の研究
有機・高分子材料開発	斎藤 拓 (協力教員)	ポリマーブレンド法による有機材料の高次構造制御と高性能材料設計。超臨界流体を利用した複合材料や微多孔膜の創製とグリーンケミストリー。応力・複屈折同時測定法による光学物性の評価や新規光学材料の設計。結晶化や分子運動など、高分子物性の基礎科学。

応用化学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
化学情報コミュニケーション学	リーザ・ルーカス	言語学、形式意味論・語用論。言語の内容と運用に関連する現象を、数理論理学の方法で分析する・特に終助詞、発話の背景にある想定、イントネーションなど、従来の理論言語学の方法論では捉えにくい現象の解明を目指す。
	任 利	ことばの多様性を社会との関わりから捉える社会言語学研究。使用者の属性・使用場面、言語行動、言語生活、言語接触、言語変化、言語意識などの観点からことばの様相を考察し、社会生活においてことばがどのように使用されているかに関する研究。今後化学情報技術力を実現するために化学物質そのものについて、意思疎通による理解を図る化学情報コミュニケーションに関する研究。

化学物理工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
異相界面工学	滝山 博志	医薬品、食品などで多用されている結晶性物質を生産するための手法、すなわち晶析操作に関する研究開発。より高品質な医薬品結晶、より高性能な機能性結晶を対象として、その製造手法を研究する。また電池材料の前駆体結晶など、エネルギー関連物質なども研究対象としている。
	長津 雄一郎	化学液体力学研究（気体は有せず液体特有な性質に着目した化学反応を伴う流体力学研究）の推進・深化とそのエネルギー分野への社会実装への展開。特に化学反応を伴う液体界面流動の学理構築とその石油増進回収技術への応用に取り組んでいる。
化学エネルギー工学	Wuled Lenggoro	化学プロセス工学、微粒子・エアロゾル工学、移動現象論（質量・流体・熱）およびバイオシステムの異分野横断研究を推進し、食料生産や水供給システム、生態系保護に貢献する。「ミクロ」から地球環境を含む「マクロ」な物質・エネルギー移動まで考える。
	神谷 秀博 *2024.3 退職予定	微粒子、ナノ粒子は、エネルギーシステム安定運転の阻害要因や環境汚染物質など負の側面と、医薬品を含む材料素材の高機能化の貢献など正の側面がある。微粒子、ナノ粒子の界面や高温特殊場での基礎的な挙動の評価、解析法を基盤に様々な分野での応用展開を考える。
化学情報コミュニケーション学	陳 奕廷	言語の構造体（複合語、構文など）の内部構造・意味性質に関する実証的研究。特に、言語と人間の認知能力の関わりという観点から、構造体の形式と意味の間に存在する非恣意的なリンクについてのコーパス準拠型研究。
環境バイオエンジニアリング	寺田 昭彦 (協力教員)	自然環境中の有用な微生物群を制御・活用した水・土壌環境の浄化に関する研究、および微生物の高度集合体であるバイオフィルムの制御・抑制に関する研究。具体的には、難生分解性有機化合物・窒素・リン除去を志向したバイオリクターシステムの開発、ファウリングを抑制するろ過膜や抗菌材料の開発など。
	利谷 翔平	未利用廃棄物の再生可能エネルギー、肥料・土壌改良材などへの変換に関する研究を行う。具体的には湿式・乾式メタン発酵による下水汚泥や農畜産廃棄物の処理やそ

化学物理工学専攻		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
		の残渣の利用に関する研究。廃棄物由来肥料を投入した土壌における温室効果ガス生成・栄養塩挙動の解明や削減法に関する研究など。
基礎電子工学	清水大雅	半導体、磁性体、高分子、バイオ材料など異種材料一体集積と高効率光変調、高感度センサに関する研究を行う。高感度センサを他の分野に応用し、学際的な研究を行う。
原子過程工学	畠山温	レーザー分光、レーザースピン偏極、レーザー冷却をベースとした原子・分子・光物理学の実験的研究。特に、原子-表面相互作用の基礎研究と、それに基づく原子の精密計測や量子制御への応用研究を行う。
磁気物性工学	香取浩子	磁性体で生じる相転移現象の実験的研究。特に、フラストレーションを内在する物質において、スピン・格子・電荷などの自由度の複雑な絡み合いの結果生じる相転移現象の学理を追求するとともに、それに付随する機能の開拓を目指す。
反応工学	伏見千尋	炭素系資源の熱分解・ガス化・水熱液化反応器の研究開発。再生可能エネルギーを組込んだ火力発電とバイオマス発電の高付加価値化。バイオマスからの化学品生産プロセスの開発。流動層装置の流動と反応解析。
	桜井誠	マイクロ化学プロセスへの応用に向けた構造体触媒の高機能化、環境分野へのファインバブルプロセスの応用、化学プロセスの高効率化に向けた非定常操作、熱化学サイクルによる新規高効率エネルギー変換プロセスの設計等、新しい反応場や反応プロセスの創出や設計に関する研究。
物質分離工学	徳山英昭	機能性高分子（ソフトマテリアル）材料の開発と材料の製造プロセスおよび材料を利用する工業・環境・エネルギープロセスに関する研究。具体的には、分離材、触媒材料などの開発、および微粒子や多孔質など構造制御技術の構築。
	大橋秀伯	近年の機能分子産生デバイスや省エネ技術のためには、分子移動現象にかかわる知見が欠かせない。機能性分子の移動物性取得・解析手法の開発を通じて、リチウムイオン電池用材料の開発、タンパク質の連続リフォールディング技術、化学的グラフト手法など、エネルギー分野・ライフサイエンス分野の先進技術開発に取り組む。
プロセスシステム工学	山下善之 *2025.3 退職予定	安全・安心かつ効率的なプラントの運転操作をめざした高信頼性運転制御系の設計および実現手法の開発。データリッチ環境におけるプラントの知的運転支援システムの構築手法に関する研究。プロセスシステムの高度シミュレーションと最適化に関する研究。化学プラントのスマート化に関する研究。
	金尚弘	プロセスデータ解析、プロセスモデリング、プロセス制御などの技術開発および応用を行っている。化学、半導体、医薬品など幅広いプロセスを対象として、異常検出、歩留まり改善、制御性能改善などを実現することを目的としている。





















